

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02394

研究課題名(和文) 称名寺聖教を中心とした東国寺院における唱導資料と説話に関する研究

研究課題名(英文) A study on the narrative literature which was recited by preaching during the Medieval Period in Kamakura and Syomyo-ji Temple

研究代表者

高橋 悠介 (Takahashi, Yusuke)

慶應義塾大学・斯道文庫(三田)・准教授

研究者番号：40551502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：神奈川県立金沢文庫が管理する称名寺(横浜市金沢区)所蔵の寺院聖教中の唱導資料を中心に調査を行い、特に千字文で分類された説法の台本「千字文説草」を可能な限り復原して、翻刻の基礎稿を作成した。また、こうした唱導資料を、経典や説話集等に所収される類話、記録等と比較しながら検討することを通して、中世の東国寺院における法会や唱導の実態、唱導資料収集の様相、寺院文化圏で形成された説話のあり方などを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

唱導資料には、中世寺院社会の実態や日本中世の仏教の知の体系が反映されており、その研究は、ひいては中世の知のありようを解明することにつながる。また、唱導においては、仏教の教えや寺院の諸活動の意義を、比喻の説話を交えて説くのが常套的であり、唱導資料の表現分析により、中世文学の生きた動態が浮かび上がってきた。中世文学・芸能の研究のみならず、仏教学・仏教史研究などにも資する唱導資料の意義が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：We mainly investigated the books possessed by Syomyo-ji Temple and study on the narrative literature which was recited by preaching (shodo) in Kamakura. We have reprinted texts on preaching (Senji-mon-sesso) which was classified by the Thousand Character Classic (Senji-mon poem), and analyse on the actual circumstances of preaching and the narrative literature which was recited by preaching during the Medieval Period in Kamakura area.

研究分野：日本文学

キーワード：唱導資料 聖教

1. 研究開始当初の背景

(1) 金沢文庫には、鎌倉幕府の要職にあった金沢北条氏の菩提寺・称名寺に伝来した豊富な唱導資料が残っている。称名寺伝来の唱導資料の中では、天台系の安居院流唱導に関する質・量共に重要な一群の説草がよく知られているが、他にも解脱房貞慶や東大寺尊勝院の弁暁による南都系の説草、東国で成立した大規模説草群など、多くの唱導資料が残されている。これらの概要は、企画展図録『五寸四方の文学世界』(神奈川県立金沢文庫、2008年)などにおいて紹介されているが、その解読と研究は今後の課題として残されている部分が大きかった。

(2) 先述の『五寸四方の文学世界』において「謎の大規模説草群」として紹介されている「千字文説草」は、内容の主題に応じて、表紙の右上に千字文が付された説草群で、現在確認できているだけで約180帖ある。千字文とは、中国・梁の周興嗣が作成した「天地玄黄」から始まる千字からなる韻文で、寺院の経蔵では、しばしば千字文の一字ずつが分類記号として用いられる。これらの中には、『今昔物語集』『沙石集』『発心集』などの説話集所収話と同話・類話にあたる内容が記された説草もあり、千字文説草の調査・翻刻が中世の説話文学研究に新たな視角を提供する可能性が想定された。

(3) 金沢文庫での特別展「仏教説話の世界」(会期：2015年10月2日～11月15日)を企画担当した際、千字文説草を中心に約70帖の唱導資料を展示し、解説と翻刻を付した図録を刊行した。ただし、千字文による分類大系の全体像を示すためには、約180帖全てを翻刻して公にすると共に、総合的な研究を行いたいと考えた。千字文説草は、称名寺三世長老湛睿が残した説草群と共に、東国寺院の法会に関わる重要資料であり、その全体像を明らかにすることは、東国寺院の唱導の実態解明につながる。

2. 研究の目的

本研究では、金沢文庫が管理する国宝・称名寺聖教中の重要な唱導資料を翻刻して公にすると共に、これを通して中世の東国寺院における唱導や、唱導資料の書写・享受の実態、寺院圏で活用されていた説話の研究を深めることを目的とする。称名寺聖教中の鎌倉・南北朝期に書写された唱導資料の調査を中心に、唱導に関わる資料を広く調査対象とし、東国寺院における唱導を総合的に追及する。特に、千字文で分類された「千字文説草」については、原本調査に基づく良質な翻刻本文を提供すると共に、法会の場の問題や、教説的背景から文芸との関わりの諸相までを視野に入れた総合的な研究を行い、中世の唱導資料に込められた世界の広がりとその意義を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 中世の東国寺院圏での唱導と、唱導で引き合いに出される説話の実態を解明するための基礎作業として、まず称名寺聖教全体を見直し、原本調査と写真撮影により、新発見資料も含めた唱導資料の目録データを拡充した。そうした中で、装訂や筆跡なども含めて検討し、一点一点を見ているだけではわからない資料のまとまりや、書写された背景などの解明、断簡になっている唱導資料の復原にもつとめた。さらに、他の寺院・機関等に所蔵される関連資料との相互比較も含めて、広い視野から中世寺院の唱導および唱導資料について研究を深め、唱導における説話のあり方についての多角的な分析を行った。唱導資料の中でも、千字文説草については、優先的に取り組む重点資料と位置づけ、全文翻刻を行うこととした。

(2) 資料保護のため、原本調査は最小限に抑える必要があり、写真撮影により、画像データをもとにした研究も行うことができるようにした。まずは画像データに基き翻刻の基礎データを作成し、その後、原本と対照して校正を行った。翻刻にあたっては、まず凡例を相談の上、順次作成したデータを検討した。

(3) 主に称名寺聖教の検討により、鎌倉から南北朝期にかけての東国寺院における法会や唱導の実態、唱導資料収集の様相を明らかにし、唱導における説話のあり方を分析した。唱導資料の書誌学的な検討、文献資料の相互関係の解明、唱導資料の表現や表記形態の研究、関連話との比較に基き説話分析、漢訳仏典や經典注釈学との関連、法会の場の検討、歴史的な観点からの唱導研究など、多様な視角から取り組んだ。

(4) 研究組織内では、期間中、随時、研究会を行い、3年目にあたる2018年度には公開の研究集会を開催して、研究成果を明らかにすることとした。また、神奈川県立金沢文庫における、唱導資料を中心とした展覧会に協力する形で、研究成果を広く一般に還元することを志した。

4. 研究成果

(1) 唱導資料の書誌調査

神奈川県立金沢文庫に定期的に通い、研究分担者・研究協力者と共に、金沢文庫に保管される称名寺聖教を見直し、唱導資料とその関連資料の調査を行った。また、大谷大学図書館、高野山大学図書館、香川県・覚城院などにおいて、関連する文献資料の書誌調査を行った。

主には、表紙の右肩に千字文が振られ分類されている称名寺の説草群「千字文説草」を調査したが、他に「公誉法印説草」や、唱導資料と推定される断簡類も調査対象とした。千字文説草については、概ね鎌倉後期写本の粘葉装であることが確認でき、書誌情報を装訂・寸法・筆跡の類似点などから整理することにより、個々の資料の相互関係を把握し、糊離れなどのため別々に分かれて整理されていた資料についても、復元的な考察ができるようになった。従来、『釈門秘録』の断簡の可能性のあるものとして仮に分類されていた一群の中に、千字文説草の断簡が含まれていた例もあり、また欠損等により表紙の千字文が見えなくても、筆跡等の特徴から千字文説草と推定できる場合もあった。

これらに付された千字文は主題による分類であり、同じ千字文の付された説草を比較することで、どのような主題で分類されたのか、その体系を推測できるようになった。具体的には、「酉」24帖：逆修、「金」19帖：神明垂迹、「公」19帖：廻向、「成」16帖：亡息(女)廻向、「宇」14帖：法華経、「丁」13帖：勸進、「陰」10帖：亡母追善、「玄」9帖：阿弥陀、「六」9帖：僧歎徳、「日」6帖：観音、「子」5帖：法華効能、「洪」4帖：如法経、「種」3帖：父母孝養、「天」3帖：三身釈、といった主題による分類体系を推測することができた。同様の趣旨の法会で用いる表白・因縁・施主段等が、同じ千字文分類の中で、各帖に分かれた形で存在することが判明した。

(2) 千字文説草の翻刻

千字文説草については、研究分担者・研究協力者と共に凡例を相談の上、順次、翻刻の基礎稿を作成し、原本と対照確認しつつ校正を続けた。翻刻と解題の公刊を期していたが、金沢文庫が、空調設備改修工事のため、2019年11月18日から2020年3月下旬まで休館することとなり、最終的な原本確認の調査ができなくなった。科研期間を延長したものの、世界的な感染症の蔓延により調査ができない状態が続いたため、翻刻原稿を読み合わせ、典拠や類話との比較から翻刻を見直す作業を中心に行った。今後、『称名寺聖教 尊勝院弁曉説草 翻刻と解題』『金沢文庫蔵 国宝称名寺聖教 湛睿説草 研究と翻刻』(いずれも勉誠出版)等に続く金沢文庫資料シリーズのうちの一冊として公刊する予定である。

(3) 公開シンポジウムの開催

2018年12月2日に、本科研との共催の形で、仏教文学会12月例会を神奈川県立金沢文庫で開催した(後掲(6)で言及した特別展「顕われた神々」の連携企画)。そこで「称名寺の千字文説草を考える」というテーマのシンポジウムを行い、本科研の調査メンバーである貫井裕恵氏(研究分担者)・高橋秀城氏(研究協力者)・恋田知子氏(研究協力者)と研究代表者・高橋悠介の4人が、称名寺の千字文説草に関するこれまでの調査・研究の成果を報告した。

また、2017年9月23・24日に慶應義塾大学三田キャンパスにおいて、宇都宮啓吾氏の科研をはじめとする他の複数科研との共催の形で、「第1回 日本宗教学文献調査学 合同研究会」を開催し、寺社に収蔵される文献等の文化財を調査・研究するにあたっての情報共有を目的としたシンポジウム・ポスターセッション等を行った。

(4) 唱導と説話に関する研究

上記(3)でふれたシンポジウム「称名寺の千字文説草を考える」の報告に、その後の検討を加えた論文4本が、『仏教文学』45号(2020年4月)に掲載された。千字文説草について、全体的な特色、歴史学からみた位置づけ、經典受容や称名寺三世の湛睿の説草との関係、法華経関連説話の分析等、様々な視角からの論考をまとめることができた。

特に、安居院の唱導との関連も一部にはあるが、鎌倉の杉本寺(椋本寺)や岩殿寺(岩堂)における唱導や、鎌倉大仏造立勸進の説草、『念仏往生伝』編者で上野国山上の念仏行者・行仙の自筆経の機能を説く説草など、東国文化圏に関わる内容が多く含まれることがわかった。また、様々な源流を持つ内容を段階的に集成した説草群と推測され、実用の覚え、あるいは草稿的性格がうかがえるものが多いことも判明した。法会で読み上げる表白に著名な秀句を活用している例、法会における説話が追善法会を行う施主への配慮により変容する実態、同様の説話が場に応じて異なる主題で語り直されていたことなども明らかになった。称名寺三世長老の湛睿(1271~1346)が既存の千字文説草を参照しつつ、本文を推敲して、より実際の唱導にふさわしい形に改変したと思われる例も確認できた。

なお、湛睿の説草については、元亨4年(1324)に金沢北条氏の被官の三回忌に語られた説話を記す『恩愛継難断事』に基づき、魂魄という二元的な靈魂観が、室町期の能楽における幽霊の描かれ方の背景にあることを指摘した論文「能の亡霊と魂魄」を『能と狂言』14号に発表した。

また、称名寺聖教中に複数の聖徳太子伝関係書を残している了敏という僧について、尊経閣文庫蔵『聖徳太子御事』の筆者でもあること、東大寺知足院を拠点とし、長西の系譜を引く諸行本願義を奉じていたが、後に西大寺流とも関わりを持ちつつ、太子信仰に基づく活動を行った経歴などを明らかにする論文「律院称名寺と聖徳太子伝 釋了敏の写本を中心に」を『説話文学

研究』52号に発表した。

その他、称名寺聖教等をもとに、中世の身体生成をめぐる思想や説話、物語注釈などを、諸宗教の融合と衝突の場という視角から論じた論文「身体生成をめぐる思想と中世仏教 五蔵観・魂魄・胎内説」を、シリーズ日本宗教史3『宗教の融合と分離・衝突』(吉川弘文館)に執筆した。

(5) 神祇信仰をめぐる唱導と説話の研究

称名寺聖教中の神祇書『天照大神宝鏡等 私』、『異本大事』を通して、中世日本紀説の生成や神祇灌頂の背景を考察した論文「称名寺の神祇書形成の一端」を、『生活と文化の歴史学 9巻 学芸と文芸』(竹林舎、2016年)に発表した。また、称名寺聖教中の神祇書『日本得名』にみえる日本紀説が、僧侶の神社参詣作法を意義づける『諸社口決』という神祇書と密接に関連して成立したこと、『諸社口決』の思想史的意義などを、『諸社口決』と伊勢灌頂・中世日本紀説」(『【シリーズ】日本文学の展望を拓く 5 資料学の現在』笠間書院、2017年)で論じた。『諸社口決』については、密教的社参作法の口伝として、後世に大きな影響を与えた意義についても、中世神話や物語の注釈、箱根参詣の神前作法への影響なども含め、『諸社口決』と密教的社参作法の展開」(『中世に架ける橋』森話社、2020年)に執筆した。

2019年6月29日には、名古屋大学で開催された説話文学学会2019年度大会シンポジウム「律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋」において、「称名寺の説話資料と律」と題して報告を行った。この中で、称名寺聖教中の『舍利要文』所収「異砂記」と「〔狛〕行光事 付大明神」を関連資料と共に取りあげ、戒律の復興でも知られる解脱房貞慶(1155~1213)の舍利信仰や唱導、地獄蘇生をめぐる春日靈験譚の変容、その唱導が東国の称名寺で記しとどめられた意義などについて分析を行った。この報告については、『説話文学研究』55号に論文としてまとめている。

(6) 唱導資料を中心とした展覧会への協力

2018年10月15日~12月15日に国文学研究資料館で開催された特別展に協力し、同展示図録『祈りと救いの中世』(全64頁、国文学研究資料館、2018年10月)に、称名寺聖教『罪人と極卒問答』以下3点の唱導資料の解説を執筆した。また、同年11月16日~2019年1月14日に神奈川県立金沢文庫で開催された特別展に協力し、同展示図録『顕われた神々 中世の霊場と唱導』(全112頁、神奈川県立金沢文庫、2018年11月)に、コラム「『天照大神儀軌解』と素舂本神祇書一結」、及び『神祇秘伝 伊勢』以下15点の解説を執筆し、特に神祇関係の唱導資料の意義について、研究成果を一般に公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 45
2. 論文標題 「千字文説草とその特色 亡息・亡息女供養の説草を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 45
2. 論文標題 「歴史学からみた「千字文説草」」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋秀城	4. 巻 45
2. 論文標題 「千字文説草と湛睿説草」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恋田知子	4. 巻 45
2. 論文標題 「千字文説草の法華経説話」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「正楽寺蔵・荒神曼荼羅について 蔵王権現と習合した忿怒相の荒神像と諸尊」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『寺院文献資料学の新展開 第5巻 中四国諸寺院 』	6. 最初と最後の頁 201-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「『諸社口決』と密教的社参作法の展開」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中世に架ける橋』（森話社）	6. 最初と最後の頁 135-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 1
2. 論文標題 「伝憲深撰『醍醐三宝院大事』をめぐる問題」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『寺院文献資料学の新展開 第1巻 覚城院資料の調査と研究 』（臨川書店）	6. 最初と最後の頁 157-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 55
2. 論文標題 「貞慶をめぐる説話と律院 「異砂記」・狛行光春日靈験譚」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『説話文学研究』	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「身体生成をめぐる思想と中世仏教 五蔵観・魂魄・胎内説」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本宗教史 3 宗教の融合と分離・衝突』（吉川弘文館）	6. 最初と最後の頁 185-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道津綾乃	4. 巻 345・346
2. 論文標題 「『華嚴経問答』巻下の翻刻と校訂」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『金沢文庫研究』	6. 最初と最後の頁 31-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 44
2. 論文標題 「『玉伝深秘巻』の宗教的基盤 付、室町後期神祇書における受容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『仏教文学』	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡芳文	4. 巻 985
2. 論文標題 「中世日本における文書と情報の管理」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『歴史学研究』（歴史学研究会編）	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道津綾乃	4. 巻 2
2. 論文標題 「日本神奈川県立金沢文庫現存的中国天台典籍」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『天台佛学研究』	6. 最初と最後の頁 479-489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 道津綾乃	4. 巻 343
2. 論文標題 「『華嚴経問答』巻上の翻刻と校訂」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『金沢文庫研究』	6. 最初と最後の頁 34-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 16
2. 論文標題 「今に息づく日本中世「知」のアーカイブズ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『書物学』	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 861
2. 論文標題 「卜部兼好の名がみえる書状」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本歴史』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「地獄蘇生の春日靈驗譚と解脱房貞慶」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国宝春日大社のすべて』（奈良国立博物館）	6. 最初と最後の頁 182-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 16
2. 論文標題 「散逸曲 仏頭山 の題材と環境」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『能と狂言』	6. 最初と最後の頁 130-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「能楽に撰取された法華・阿弥陀・観音融和の偈句 「昔在靈山名法華」偈の源流と展開」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『画期としての室町 政事・宗教・古典学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 230-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「『天照大神儀軌解』と素盞本神祇書一結」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『顕われた神々 中世の霊場と唱導』（神奈川県立金沢文庫）	6. 最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 53
2. 論文標題 「『山門秘傳』と『山門建立秘決』」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『斯道文庫論集』	6. 最初と最後の頁 167-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 52
2. 論文標題 「律院称名寺と聖徳太子伝 釋了敏の写本を中心に」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『説話文学研究』	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 339
2. 論文標題 「個人蔵・荒神曼荼羅について」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『金沢文庫研究』	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 5
2. 論文標題 「『諸社口決』と伊勢灌頂・中世日本紀説」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『【シリーズ】日本文学の展望を拓く 5 資料学の現在』	6. 最初と最後の頁 139-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 52
2. 論文標題 「斯道文庫蔵『〔高野山秘記〕』翻刻・解題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『斯道文庫論集』	6. 最初と最後の頁 65-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡芳文	4. 巻 339
2. 論文標題 「宝生寺聖教『神祇明鏡集』について」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『金沢文庫研究』	6. 最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 貫井裕恵	4. 巻 -
2. 論文標題 「建久の東寺仏舎利出現をめぐる叙述について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『運慶 鎌倉幕府と靈験伝説』	6. 最初と最後の頁 43-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「伝白雲慧暁撰『由迷能起』について」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 天野文雄監修『禅からみた日本中世の文化と社会』(ペリかん社)	6. 最初と最後の頁 353-371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「称名寺の神祇書形成の一端」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福島金治編『生活と文化の歴史学 9巻 学芸と文芸』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 483-503
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 8
2. 論文標題 「密教聖教のかたち 装訂・符牒をよむ」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『書物学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 14
2. 論文標題 「能の亡霊と魂魄」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『能と狂言』	6. 最初と最後の頁 30-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 51
2. 論文標題 「伝憲深編『灌頂印明口決』と空観房如実」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『斯道文庫論集』	6. 最初と最後の頁 189-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋悠介	4. 巻 -
2. 論文標題 「金春禅竹の信仰圏と翁論 『明宿集』を中心に」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『能楽研究叢書7 金春家文書の世界 文書が語る金春家の歩み』（法政大学能楽研究所）	6. 最初と最後の頁 33-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西岡芳文	4. 巻 8
2. 論文標題 「金沢文庫文書 秘められた鎌倉の遺宝」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『書物学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡芳文	4. 巻 8
2. 論文標題 「文庫をひらく 金沢文庫」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『書物学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡芳文	4. 巻 338
2. 論文標題 「称名寺聖教・金沢文庫文書の面白さ～「忍性菩薩展」をめぐる発見から～」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『金沢文庫研究』	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「『三国伝記』の神祇関係説話小考」
3. 学会等名 「応永・永享期文化論」公開シンポジウム「『三国伝記』の宗教的研究」（Zoomによるオンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「密教聖教の略字表記と東密西院流」
3. 学会等名 第33回斯道文庫講演会・文庫開設60年記念フォーラム「書誌学のこれまでとこれから」（YouTube配信のオンライン開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「称名寺の説話資料と律」
3. 学会等名 説話文学会2019年度大会シンポジウム「律をめぐる宗教的環境と説話文学との架橋」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「身体論の中世的展開と五蔵説」
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会・パネル「中世密教の宗教テキストの展開 覚鑠を中心に」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡芳文
2. 発表標題 「富士山縁起と中世の富士信仰」
3. 学会等名 富士山世界遺産センター・富士山かぐや姫ミュージアム共同企画展「富士山の女神 かぐや姫」記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡芳文
2. 発表標題 「真宗の全国展開は野比最宝寺から始まった」
3. 学会等名 三浦一族研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 「中世東寺における執行家の職務について」
3. 学会等名 第4期第3回東寺文書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 「御家人安達氏と中世の鎌倉」
3. 学会等名 鎌倉禅研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「春日権現験記絵と解脱房貞慶」
3. 学会等名 奈良国立博物館特別展「国宝 春日大社のすべて」 公開講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「中世密教僧の日本国号説と社参作法 『日本得名事』を読む」
3. 学会等名 法政大学国際日本学研究所公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 A Study on Sources of the First Section of Nihongi Miwa-ryu (「『日本記三輪流』初重遯源」)
3. 学会等名 ハンブルク大学写本文化研究センター研究会Varieties and Patterns of Manuscripts in Medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 Les accusations d'heresie contre la lignee monastique du Kongoo ' in (「金剛王院流をめぐる邪流批判」)
3. 学会等名 スイス・ヌーシャテル大学研究会Heresie et pouvoir dans l'Occident et le Japon medieval (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「能作品の仏教語句を考える」
3. 学会等名 法政大学能楽研究所研究集会「能楽資料研究の可能性」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「伝憲深撰『醍醐三宝院大事』をめぐる問題」
3. 学会等名 第二回寛城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「千字文説草の特色と所収説話」
3. 学会等名 仏教文学会12月例会シンポジウム「称名寺の千字文説草を考える」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「金春禅竹と自然表象」
3. 学会等名 東京大学東洋文化研究所ワークショップ「和漢の故事人物と自然表象 16、7世紀の日本を中心に」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「能に描かれた紀州の神仏－《巻絹》について」
3. 学会等名 第6回紀州地域学共同研究会研究集会シンポジウム「熊野・紀伊路と能楽」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 「歴史学からみた千字文説草」
3. 学会等名 仏教文学会12月例会シンポジウム「称名寺の千字文説草を考える」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋秀城
2. 発表標題 「千字文説草の経典受容」
3. 学会等名 仏教文学会12月例会シンポジウム「称名寺の千字文説草を考える」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恋田知子
2. 発表標題 「千字文説草の法華経説話」
3. 学会等名 仏教文学会12月例会シンポジウム「称名寺の千字文説草を考える」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 Temple management and missionary activities in the Middle Ages of Japan
3. 学会等名 International Symposium "Pastoral Care and Monasticism: ca. 800-1650" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西岡芳文
2. 発表標題 Le systeme de divinites autour du rituel de la desse Dakini (ダキニ法を中心とする神々の体系)
3. 学会等名 "La fabrique des dieux dans le Japon medieval : Dieux mineurs et divinites secondaires" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「春日社と南都の律家をめぐって 禅律仏教 / 室町將軍 / 勸進猿樂」
3. 学会等名 能楽学会世阿弥忌セミナー「中世の南都回帰 政治・宗教・文化と能楽」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「金春禅竹の六輪一露説と志玉」
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第六八回学術大会パネル発表A「室町期の南都仏教 東大寺戒壇院志玉とそのネットワーク」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「『玉伝深秘巻』の宗教的基盤と神祇書への展開」
3. 学会等名 和歌文学会・説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「中世古今集注釈とテキスト・信仰・学問」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋悠介
2. 発表標題 「律院と聖徳太子伝」
3. 学会等名 説話文学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西岡芳文
2. 発表標題 「式盤をまつる修法とその展開」
3. 学会等名 「陰陽道史研究の会」第三回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 貫井裕恵
2. 発表標題 「称名寺聖教・金沢文庫文書の国宝指定に関連して」
3. 学会等名 第49回日本古文書学会大会見学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 貫井裕恵（編集・総説執筆他）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 112
3. 書名 『特別展 安達一族と鎌倉幕府』	

1. 著者名 神奈川県立金沢文庫編（貫井裕恵・西岡芳文・高橋悠介、他執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫	5. 総ページ数 111
3. 書名 『顕われた神々 中世の霊場と唱導 』	

1. 著者名 高橋悠介（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・慶應義塾大学アート・センター	5. 総ページ数 24
3. 書名 『平成二十九年度センチュリー文化財団寄託品展覧会「空海と密教の典籍」』	

1. 著者名 道津綾乃・高橋秀榮（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 704
3. 書名 『中世禅籍叢刊 第10巻 稀覯禅籍集』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西岡 芳文 (Nishioka Yoshibumi) (90443407)	上智大学・文学部・教授 (32621)	
研究分担者	岡本 綾乃 (道津綾乃) (Okamoto Ayano) (40443410)	神奈川県立金沢文庫・学芸課・主任学芸員 (82720)	
研究分担者	貫井 裕恵 (Nukui Hiroe) (40782868)	神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員 (82720)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 秀城 (Takahashi Syuzyo) (20459259)	大正大学・表現学部・非常勤講師 (32635)	
研究協力者	恋田 知子 (Koida Tomoko) (50516995)	慶應義塾大学・文学部・准教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関